

2025年7月16日
地域支え合い研修

「福祉と防災」
～区内施設・地域の取り組みから
福祉防災を考える～

NPO法人きてん 総務課長
早坂 信一

障害者地域活動ホーム ほどがや希望の家施設概要

- ・ほどがや希望の家は1981年に第1号の活動ホームとして発足し、1996年に「機能強化型活動ホーム」へ移行し、2007年に「NPO法人きてん」に運営主体を移行している。
- ・ほどがや希望の家は地域の障害のある方の活動や生活を支援するため、生活介護事業、地域活動支援センター（デイサービス型）、地域交流事業、生活支援事業（ショートステイ・一時ケア、おもちゃ文庫）、地域活動支援、計画相談などの様々な事業に取り組んでいる。

利用者主体の防災訓練に取り組んだきっかけ

・ほどがや希望の家では、障害のあるメンバー（利用者）の主体性・自主性・選択性を尊重し、人と人のつながり、コミュニケーションを大切にしている。また、メンバー全員が役割をもち、活動ホームの活動を担う「係活動」があり「係活動」のひとつとして2008年に防災係が立ちあがった。

防災係が始まったきっかけは、以前、「ほどがや希望の家」を地域の方にしてもらう一つとして「希望の家まつり」を開催していた。しかし、「まつり」を開催する事で「ほどがや希望の家」はを地域の方に知ってもらえるようにはなったが、年1回の交流でメンバー一人ひとりのことを知ってもらうのは難しいのではないかと、その思いがあった事と、防災訓練時に消防署の方から「消防署は障害のある施設に優先に助けにはきません。まずは、自分緒の事は自分で守って下さい」と言われた。

この時にメンバーの一人が「まず、自分達が防災について考え、地域の人と一緒に防災訓練を行っていこう」との提案があり希望の家防災係の企画を開始した。

最初に行った防災訓練の様子

朝の打合せの様子



■ 地震発生（およそ3分間）

地震直後の室内



■ 地震発生

廊下、2Fの様子



■ 応急救護、避難経路の確保

応急救護、廊下の片付け



■ 駐車場へ避難、点呼

避難、点呼の様子



■ 天王町公園へ避難

避難の様子



■ 天王町公園へ避難

天王町公園での点呼



■ 受付の様子

受付



■ 食事・トイレの準備

事前に用意したもの



■ 電気・お湯の準備

電気準備



お湯の準備



■ 室内での避難生活の様子

1F



2F



■ 室内での食事の様子

1F



2F



現在のほどがや希望の家防災の取り組み

- ◎ 夜間や豪雨を想定した、防災訓練の実施
- ◎ 災害時のBCPを基にしたシミュレーション訓練の実施
- ◎ 福祉避難所としての備品を使用した訓練
- ◎ 地域を巻き込んだ防災訓練の実施

→一昨年度から地域の複数の事業所と地域の方とで平日に地域防災拠点までの避難訓練を実施。当日の様子は自立支援協議会のHPに掲載。

- ◎自立支援協議会 防災部会、区作連防災対策プロジェクト、
区災害ボランティアネットワーク、帷子小学校地域防災拠点
管理運営委員会に参加。

ほどがや希望の家防災訓練を実施して気づいた事と これからの課題

◎ 地震や豪雨災害などいつ災害が起きるか分からない。BCPを含めマニュアルも大切だが、マニュアルに沿った訓練やリスクマネジメント、地域との関わりがより重要。

◎2011年東日本大震災、2016年熊本地震、2018年西日本豪雨、2024年能登半島地震などの災害時、障害のある方が避難所に行けないなどより被害を受けている。障害のある方も地域住民の一員であり災害時に必要な支援を受ける権利はある。

◎災害時、地域の方の助けも必要だが、地域を助ける視点も必要。

◎私が2007年に初めて中越沖地震に支援に行った時にマニュアルに記入してあった言葉と先程紹介したメンバーの言葉が原点である。

- 「まず、自分達が防災について考え、地域の人と一緒に防災訓練を行っていこう」
- 「ネットワークはライフライン」
- 「防災は楽しく取り組む」